

第3・4学年 「総合的な学習の時間」活動案

指導者 山崎 恵

1、単元名 わたしたちのまわりの自然や地域について学ぼう～防災の視点から～

2、単元目標

- 自分たちの住んでいる町の様子や過去の水害体験を調べることで、豊岡地区の自然環境の特徴を知り、先人の苦労や願いに触れる中で、ふるさとに誇りを持ち、未来に向けて防災意識を持ち生活することの大切さを考えることができる。
- 課題に沿って必要な情報を収集・比較・分類して理解し、効果的な思考ツールを使って整理・分析することで、相手に分かりやすく表現することができる。

3、評価規準

A：知識及び技能	B：思考・判断力・表現力等	C：学びに向かう力・人間性等
<p>①水害での被害や困りを知り、防災のための知識を身につけ、そのための人々の工夫や努力がわかる。</p> <p>②情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身につけている。</p>	<p>【①課題の設定】</p> <p>○過去に起きた水害を知り、自分たちの校区に危険箇所がないかを考え、「防災マップ」を作るための解決方法を考えて追究している。</p> <p>【②情報の収集】</p> <p>○GTの話やインターネット、本や資料などから教師の支援により手段を選択し、情報を収集している。</p> <p>【③整理・分析】</p> <p>○問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。</p> <p>【④まとめ・表現】</p> <p>○相手に応じてわかりやすくまとめ、表現している。</p> <p>【⑤ふり返り】</p> <p>○学習したことをふり返り、生活に生かそうとしている。</p>	<p>【①主体性】</p> <p>○課題の解決に向けて、探究活動に取り組もうとしている。</p> <p>【②協働性】</p> <p>○課題解決に向けて、身近な人と協働して探究活動に取り組んでいる。</p> <p>【③自己理解】</p> <p>○自分のよさや自分のできごとことに気付き、課題解決に向けて取り組んでいる。</p> <p>【④他者理解】</p> <p>○自分と異なる意見や考えがあることを知り、探究活動に取り組もうとしている。</p> <p>【⑤社会参画】</p> <p>○自分とふるさとのつながりに気付き、ふるさとの活動に参加しようとしている。</p>

4、指導の立場

(1) 子どもについて

3年生7名、4年生7名、計14名の児童は、明るく、どの活動にも意欲的に楽しんで学習をしている。5月から音楽、社会、総合的な学習の時間の3教科で一緒に学習をしているが、4年生がリーダーとなりお手本になりながら、3年生も主体的に参加することで、お互いに意見や考えを伝えあいながら協力して活動を進めることができている。

4年生は、昨年度、総合的な学習の時間で、竹田市の特産物のかぼすについて調べ、多くの人に広めるために地域のかぼす農家の方の作っているかぼすを使って、かぼすグミを作り、竹楽で観光客に配った。自分たちの作った物を使って、かぼすの魅力を発信することで、地域の一員として自分たちにもできることがあることを実感し、地域とのつながりをより深めることができた。3年生は、2年生までの生活科の時間に、まち探検に出かけ、学校の近くの「やすらぎ公園」などで、自然の生き物などを見つける学習をした。その活動を通して、地域の自然について目を向けることができているが、地域の様子や地形の様子などに目を向けることはまだできていない。

1学期の授業の中では、ペア学習やグループ学習を繰り返すことで、課題解決に向けて友だちの意見を尊重しながら、話し合うことの大切さを学んできた。しかし、友だちの意見を聞かずに自分の意見を通す児童がいたり、また、自分の意見を言えずにいたりする児童も何人かいるのが課題である。

(2) 単元について

竹田市では、過去に水害による大きな被害や地震による災害を何度も繰り返してきている。豊岡地区は、過去に2度の大きな水害を経験し、大変な被害にあった歴史があるが、それを知っている児童は少ない。そこで、1学期の総合的な学習の時間では、学校が水に浸水したときの写真を全員で見たり、水害についての動画を見たりすることで、防災について考えていくことから始めることにした。そして、防災新聞を作ることを目標に、「防災とは何か」を全員で調べ、防災について学習をしていく。また、1982年7月21日の竹田水害の当時の様子を家が浸水した志賀さんや、クリーニング屋の店舗を流される被害にあった佐藤さんなど、地域の方に、実際に当時の話を聞くことで、自分たちの生活は水害と密接な関係があることを学習させたい。

そして、今後また水害が起こる可能性があることを想定し防災マップを作成することで、自分たちで避難をするときに役立つ知識へとつなげていきたい。

(3) 指導について

1学期、本やインターネットで調べたり、地域の人に水害を体験した話を聞いたりする学習を通して、水害が自分たちと関係のある身近な問題であるのとらえるようになってきた。また、社会科の授業では、町探検に行き、学校のまわりの自然の様子や地形を調べることで、地域に目をむけるよう意識づけてきた。さらに、2学期に社会科の授業の中で「水害にそなえるまちづくり」について詳しく学習することで、児童の学習の一層の深まりを期待したい。まず、児童に「ひなんをするときにハザードマップの情報だけで大丈夫だろうか。もっとわかりやすい地図はないだろうか。」と課題を投げか

ける。ハザードマップは、過去の経験や研究をもとに、危険なところがくわしく記載されているが、大人向けであることから、児童が見てすぐに理解をするのは、むずかしいことに気づかせる。また、建物などがくわしく載っていないために分かりにくいことに気づき、自分たちが、必要とする情報がのった子どもにもわかる防災マップを作成することの必要性を確認する。

その後、防災マップについて、図書館の本やインターネットを使って調べ、自分の書きたいと思う情報と合わせてどのようなことを書いていくのかをイメージマップを使って考えていく。防災マップにのせる情報を、全員で確認し学習した後、通学路が同じ3人から4人の班に分かれ、班ごとに町探検の計画をたてさせる。日頃の登下校時に気づいた危険な場所や安全な場所にも目を向けさせていきたい。

実際の町探検では、4つの方向に分かれて班ごとに探検へ行くことで、実際に歩いてみないとわからない危険な場所など小さな特徴に気づかせたい。竹田市防災士会の方や保護者の方の力をかりることで、自分たちにとって身近な通学路を中心に探検させたい。そして、自分たちで見つけた情報や写真を使って防災マップを作成する。防災マップの作成後、水害時を想定した避難経路について確認することで、もし今後、水害が起きた時に、どのように避難ができるのかをイメージし自分たちの生活に役立つような活動にしていきたい。

また、自分たちの住む豊岡地区の危険な場所や安心安全な場所について調べることで、豊岡小学校の児童だけでなく地域の方にも伝えることのできる防災マップを作り、PTAや防災集会で情報を発信できるよう指導したい。

5、郷土学としてのめざす姿

- 「郷土に学び、郷土を見つめなおす」とは、竹田市の過去の水害経験についての話を聞いたり、豊岡地区の町探検をしたりすることで地域住民の苦労や困りを知り、地域の安全のために防災マップ作りに取り組む姿をとらえている。
- 「未来につなぐ」とは、地域の安全な生活のために自分たちにできることがあることを実感し、防災の視点を持って地域の方々と協力して生活しようとする姿をとらえている。

6、単元計画（全45時間）

	過程	おもな学習活動	【評価基準】(めざす資質・能力)
小 単 元 1 防 災 に つ い て 知	課 情	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">防災って何だろう。わたしたちは、どんなじゅんぴをしたらのいいだろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">防災について調べよう。</div> <p>○学校1階にある過去の水害時の豊岡小学校の写真を見たり、水害についての動画を見たりして水害の様子を知る。</p> <p>○わかったこと、疑問に思ったことをもとに、図書館の本やインターネットを使って詳しく調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹田市のハザードマップがある。 ・大分県（竹田市）は南海トラフ地震の区域に入っている。もし、地震が来たら大変だ。 	<p>【思考力】</p> <p>インターネットや本を使って情報を集めることができている。</p> <p style="text-align: right;">(B②)</p>

整

- ・水害が起きた時のために食べ物や衣類など、用意をしておいた方がいい。
- ・この時のことをおうちの人が、知っているから聞いてみたらいいかもしれない。

○本やインターネットで調べたことをみんなで伝え合い、防災について調べた知識をみんなの知識へと広げていく。

- ・調べたことを付箋に書き、「わかったこと」と「感想」に分け、発表をしていく。
- ・出た情報をもとにテーマ分けをする。《KJ法》調べたことをまとめ、防災のためにどんなことをしていけばよいかを考える。
 - ・ひなん所をかくにんする。
 - ・用意しておいたほうがいい食べ物や道具をじゅんびする。
 - ・ハザードマップを見ておく。

ま

- 調べて分かったことをもとに、防災新聞を作成する。
 - ・2人組のグループで新聞を作成する。
 - ・作成した新聞をクラス全体に向けて発表し、交流する。

【思考力】

情報を的確に分類分けすることができている。(B③)

【表現力】

わかったことを新聞にまとめることができている。(B④)

課

竹田市の過去の水害はどのようなものだったのだろうか。

水害を実際に体験した地域の人に話を聞こう。

情

- 1982年7月21日の竹田水害の体験談を地域に住む志賀さんに聞く。
 - ・学校の近くの稲葉川が氾濫した。
 - ・豊岡小学校も浸水して、大きな被害を受けた。
 - ・志賀さんの家が床上浸水をして大変だった。
 - ・あっという間に水が増えて間に合わなかった。
 - ・生活がもとにもどるのに1年くらいかかった。
 - ・遠くから手伝いに来てくれた知人の気持ちがうれしかった。
- 竹田水害被害に合いクリーニング屋の店舗を流された佐藤さんに当時の話を聞く。

【学びに向かう力】

意欲的に話を聞こうとしている。(C①)

【技能】

体験談を聞き、疑問に思ったことを質問することができている。(A②)

整

ついて知ろう ⑧	<p>ま</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前日や当時など、水害が起きた当時の様子。 ・流された木などが橋に引っ掛かり、町中に水が氾濫をした。 ・一刻も早く、避難をすることが大切である。 ・日頃から地域の人と交流をすることが大切である。 ・お年寄りの話を聞くことが大切だと感じた。 <p>○メモをもとに、内容をグループ毎にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験談を聞き、感想を書く。 ・志賀さん、佐藤さんの話をまとめる。 <p>○グループごとに発表し感想を伝え合う。</p>	<p>【表現力】</p> <p>わかったことをまとめることができている。(B④)</p>
小単元3 豊岡地区の防災マップを作ろう ⑳	<p>課</p> <p>ひなんをするときに役立つ、わかりやすい地図はないだろうか。</p> <p>豊岡地区の防災マップを作ろう。</p> <p>○ハザードマップを見て、学校や自分の家の位置を確認する。ハザードマップの分かりやすい点、分かりにくい点を出し合い、もっとくわしい情報ののった地図(防災マップ)があれば安心だということを確認する。</p> <p>○防災マップとはどのようなものか、図書館の本やインターネットを使って詳しく調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもでもわかりやすい。 ・建物や避難場所など、くわしく書いている。 ・絵や写真、言葉を使って説明をする。 ・ハザードマップにのっていない小さな情報も書く <p>と危険な場所を伝えやすい。</p> <p>防災マップにはどんなことをのせるとよいだろう。</p> <p>防災マップの工夫をさがそう。</p> <p>○防災マップ作成に向けて、防災マップにどんなことをのせるとより実用的な防災マップになるか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の防災マップを見て、特徴などを知る。 ・防災マップにのせるものを考える。《イメージマップ》 ・避難場所 ・危険箇所 ・安全な場所 ・注意する場所 <p>○町探検の計画を立てる。</p>	<p>【判断力】</p> <p>調べ学習をしたことをもとに防災マップにのせるものを決めることができる。(B③))</p>

<p>整</p> <p>ま</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの調べる場所には、どんな危険箇所がありそうか、どの場所を調べればよいかを話し合う。 ・学校のまわりを調べ、防災マップを一度全員で作ることで、実際に班で探検をするときにどのように探検すればよいか見通しを立てる。 <p>○班ごとに分かれて、計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人ずつ4班の班ごとに分かれて実際に町探検に出かける。 <p>○町探検に出かける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水のこわさだけでなく便利さやきれいさなども感じさせる。 ・お米を作るためには、水は必要であるが、水害時には危険をとまなうことがある。 <p>○探検でわかったことをもとに防災マップを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに防災マップを作成する。 	<p>【協働力】</p> <p>友だちと協力して町探検の計画をたてることができる。(C②)</p> <p>【表現力】</p> <p>わかったことを防災マップにまとめることができている。(B④)</p>
<p>防災マップを使って、水害が起こったときのひなんルートを考えよう。</p>		
<p>本時</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>作った防災マップを使って、水害が起きたときのことを考えてみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○作成した防災マップを使って実際に水害が起きたことを想定した避難ルートを考えてみる。 ・作った防災マップを使って、避難をするときに気をつけなければいけない箇所を確認する。 ・実際に避難することを想定して、持ち物や避難の仕方避難場所を確認する。 ・全体で交流をし、避難時に気をつけることを確認する。 ○作った防災マップを防災集会で発信する。 ・防災マップと、避難経路を全体に発表する。 ・学習をしたことをもとに、感想を書く。 ・お世話になった地域の方（ゲストティーチャー、防災士の方、保護者）へお礼の手紙を書く。 	<p>【主体的に生きる力】</p> <p>地域の特徴を知り、水害時の避難の方法を考えることができる。(C⑤)</p>

7、本時案（27/45）

- (1) 題目 作った防災マップを使って、水害が起こったときのことを考えてみよう。
- (2) 主眼 実際に水害が起こったときの避難の仕方について、自分たちで作った防災マップを利用して被害の想定をしたり、ステップチャートに表したりすることで話し合い、考えることができる。

(3) 展開

学習活動	時間	指導及び支援	評価の観点
1、今日のめあてを確認する。	5	○前時までの活動を振り返り、本時のめあてを確認する。	
防災マップを使って、水害が起こったときのことを考えよう。			
2、防災マップを見て、水害時に危険な場所を予想し記入する。	15	○透明なシートをはった防災マップを見て、水害時にどのような被害があるかを想像し絵やメモにして記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・まず学校の周りの地図を使い、どのように記入をすればよいかを例として伝える。 ・グループごとにわかれ、危険な場所、安全な場所を話し合わせ記入をさせる。 ・水路や川などの水の流れ、壊れそうな物などに着目をさせる。 グループ①荒巻方面 グループ②上鹿口方面 グループ③三砂・一本木方面 グループ④田原方面	防災マップの中から、水害時における危険場所や安全箇所を見つけどのように避難をすればいいか考えている。(B③)
3、予想した被害をもとに避難経路を確認し記入する。	20	○危険な場所や安全箇所などに着目をさせ避難経路をステップチャートに表し考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・スタート地点（現在地）と避難場所はグループごとに決めておく。 ・危険場所や安全箇所などを話し合わせステップチャートに書かせる。 	
4、ふりかえりをする。	5	○本時のふりかえりをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・避難時に注意することや必要な物についても、メモをさせるようにする。 ・今日の学習の感想を発表させる。 	

8、考察

- (1) 教材（素材）は、子どもの意欲を高めるものであったか。
- 「自分たちの通学路の危険箇所を点検する」ということで見学からずっと意欲的に取り組み活動していた。
 - 町探検の内容をよく覚えていて、本時では危険な理由をしっかりと言えていた。
 - 防災士の方や、GT の話をよく覚えていて考える手立てとすることができていた。
- (2) 思考ツールは、探究的な学習につながっていたか。
- ステップチャートがスタートからゴールというふうに道順になっていたの地図と連動していて考えやすかった。
 - ステップチャートに書く時に様々な避難時に必要な道具を絵にかいていたことで、子どもたちの興味を引くものになった。
- △地図上の危険箇所のシールの番号をたどりながら、自分たちの写真を移動させて、ステップチャートに順番にまとめることができた班と、番号順にただ、ステップチャートに並べていて自分たちが移動している意識が少ない班があった。
- (3) 地域のために自分たちにできることはないか考え、行動しようとする姿につながっていたか。
- 「学校にいるときの避難場所がゴルフ場である」など安全な箇所を把握していることで避難ルートを自分たちで考えることができていた。
 - スタートとゴールが決められていたが、防災マップを作ることで、ゴールできないので学校から動かないことが安全につながると考え、ゴルフ場に避難をしたほうがいいとと再確認しているグループがあった。（田原地区）
- △ゴールが学校という避難ルートばかりを考え、ゴルフ場への避難する方法を忘れていた班もいた。
- (4) その他
- 竹田市防災士会の方々や保護者と協力して活動をすることができた。
 - 学校での洪水の避難訓練が活かされていた。
 - スタートが学校だった班から、学校に防災バックを置いていた方がいいという新しいアイデアが活動を通して出てきた。
 - みんなで一度学校周辺の地図を作成したことで、各グループの作成がスムーズに活動できたのではと思う。
 - 防災マップの上に透明シートを貼ることで被害と通常のちがいが分かりやすくなりよかった。
- △透明シートにどのように書いたらよいか分かりにくかったの、学校の周りの地図を作った時にも練習をしておくよかった。
- △本時では、水害と地震の両方の被害を想定して考えていたので、水害の場面だけを考えられるようにするとよかった。

